



2017年3月16日

アウディ、将来に向けた戦略を策定

- 堅調な中核ビジネス：販売台数、売上高のいずれも増加。特別項目を除外した営業利益率は目標範囲内の8.2%を達成
- ディーゼル問題とタカタ製エアバッグ関連：特別損失18億ユーロを含めた営業利益は31億ユーロ、営業利益率は5.1%
- 強固な財務体質：ネットキャッシュフローは21億ユーロ、ネット流動性は172億ユーロに増加
- ニューモデル攻勢：2019年までにSUVを新たに2モデル、2020年までに電気自動車を3モデル、2018年までに主要後継モデルを導入予定
- ロボットカーのテクノロジー開発を行うAutonomous Intelligent Driving GmbHを新たに設立

2017年3月15日 インゴルシュタット:アウディは今後数年の間に、製品ラインナップを大幅に刷新し、複数の電気自動車を市場へ投入するほか、新しいデジタルビジネスの分野に参入します。中核ビジネスが堅調なことから、今後の投資のための基盤も整っています。2016年、アウディグループの売上高は593億ユーロに増加し、特別項目を除外した営業利益率は8.2%を達成しています。

アウディは、V6 3.0 TDI ディーゼル問題とタカタ製エアバッグの関連で、合計18億ユーロの引当金を計上しています。これらの特別損失を含めても31億ユーロの営業利益をあげ、営業利益率も5.1%を確保しています。

AUDI AG 取締役会会長のルパート シュタートラーは、15日に開催された年次記者会見で次のように述べました。「2016年は当社にとって厳しい試練の年になりました。しかし、中核となるビジネスから着実に利益をあげるとともに、将来に向けた道筋も定めることができました。」アウディは2020年までに、バッテリー式電気自動車を3モデル導入する予定で、その後もモデルシリーズの電動化を進めていく方針です。電動化に対する取り組みの一環として、過去3年の間に既に6,000人以上の従業員に対して、高電圧テクノロジーを扱うためのトレーニングを実施しました。高速充電の公共インフラ開発にも参画しています。

さらにアウディは、フォルクスワーゲングループの開発リーダーとして、自動運転車両のための技術開発に力を入れています。ミュンヘンに新たに設立した子会社、Autonomous Intelligent Driving GmbHは、都市の中で自動運転車両を動かすためのシステム開発に取り組んでいます。このテクノロジーは様々なブランドのモデルに適用可能であり、今後の発展が想定されているロボットタクシーなどのモビリティサービスの基盤にもなります。アウディは、自動車及びIT業界の強力なパートナーと協力関係を締結することも模索しています。

同時にハイウェイや地方道といった、それ以外の交通環境下で機能を発揮するアシスタンスシステムや自動運転システムの開発もさらに推進します。新型Audi A8のお客様は、世界で初めて渋滞した道を60km/h以下で走行する場合に機能するレベル3の自動運転システムを体験することになります。

今後数年の間に、アウディはモデルラインナップを大幅に刷新します。2017年には新型Audi A8に加え、Audi Q5やAudi A5といった主要な市販モデルの新世代バージョンが相次いで市場に投入されます。さらに、Audi Q2の海外における販売地域も拡大する予定です。2018年には第2世代のAudi A7を投入し、トップエンドのモデルラインナップを強化します。同じ年に発売予定のAudi Q8は、市場で人気のSUVシリーズをさらに補完する役割を果たすことが期待されます。2019年にはもう1台のニューモデル、スポーティでコンパクトなSUVモデルであるAudi Q4の導入が計画されています。

昨年、アウディの全世界における販売台数は前年比3.6%増となる1,867,738台となり、新記録を達成しました(2015年:1,803,246台)。Audi Q7とA4モデルの好調なセールスが販売台数増加の最大の要因となりました。アウディグループの売上高は、不利な為替環境にもかかわらず、前年比1.5%増加し、593億1,700万ユーロに達しています(2015年:584億2,000万ユーロ)。

AUDI AG 財務および IT 担当取締役のアクセル ストロットベックは次のように述べています。「我々のビジネスが堅調であることは、特別項目を除外した営業利益率を見れば明らかです。困難な状況及び多額の先行投資にもかかわらず、営業利益率 8.2%という実績は我々が目標にしていた 8~10%の範囲に収まっています。」2015 年度の実績は 8.8%、2016 年における特別項目計上前の営業利益は 48 億 4,600 万ユーロでした（2015 年：51 億 3,400 万ユーロ）。

特別項目に関してアウディ グループは 2016 年度に、米国における V6 3.0 TDI ディーゼル問題を解決するための費用として 16 億 3,200 万ユーロの引当金を計上しました（2015 年：2 億 2,800 万ユーロ）。また、タカタ製エアバッグ不具合の可能性に関連して、1 億 6,200 万ユーロの特別項目を計上しました（2015 年：7,000 万ユーロ）。2016 年における最終的な営業利益は 30 億 5,200 万ユーロ（2015 年：48 億 3,600 万ユーロ）で、営業利益率は 5.1%でした（2015 年：8.3%）。

アウディ グループは、2016 年度に 30 億 4,700 万ユーロの税引き前利益をあげました（2015 年：52 億 8,400 万ユーロ）。前年に対し減少しているのは、特別項目に加え、金融収支の黒字幅が減少したことも要因となっています。

好調な業績による成果は、アウディの従業員にも配分されます。総労使協議会と協議の上、インゴルシュタットとネッカーズルムの生産拠点で賃金協定のもと給与を受け取っている従業員には、平均して 3,510 ユーロのボーナスが支給されます（2015 年実績：5,420 ユーロ）。アウディの関連子会社においても、それぞれの業績に応じたボーナスが支給されます。

アウディ グループは、自己資金のなかから将来のための先行投資を行いました。2016 年には 34 億ユーロの資本投資を行いながらも（2015 年：35 億ユーロ）、ネットキャッシュフローを 21 億ユーロまで増加させています（2015 年：16 億ユーロ）。2016 年 12 月 31 日時点のネット流動性は、172 億ユーロに達しており（2015 年 12 月 31 日時点：164 億ユーロ）、会社の健全な財務体質の証となっています。

アウディは、2016 年夏に発表された新しい戦略をサポートするため、同年に「SPEED UP!」と呼ばれる一連の対策を開始しました。ストロットベックは次のように述べています。「我々はこのような方法で、2017 年も全社一丸となって業務及びコスト効率を高めるための取り組みを続けていきます。これは我々が利益目標を達成し、将来に向けた技術革新と投資を実行するための資金を確保する上で、必ず助けとなってくれるでしょう。」

アウディ グループは、今年総売上高の 5.0~5.5%に相当する額の資本支出を予定しています。売上高に対する研究開発費の割合は、アウディが戦略目標に設定している 6.0~6.5%のレベルを少し上回ると予想しています。ネットキャッシュフローは今年も確実に黒字になりますが、ディーゼル問題に関連する出費により、昨年のレベルを大幅に下回る見込みです。アウディ グループの販売台数と売上高は、さらに少し増加すると予想しています。営業利益率については、昨年同様 8~10%を目標にしています。投資収益率の予測値は、15~18%です。

*本リリースは、ヨーロッパ仕様に基づく AUDI AG 配信資料の翻訳版です。